

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	天理医療大学
設置者名	学校法人天理よろづ相談所学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計		
医療学部	看護学科	夜・通信		50	76	126	13	
	臨床検査学科	夜・通信			72	122	13	
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/wp-content/themes/wp_tenri/pdf/alter/disclosure_practice_2019.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	天理医療大学
設置者名	学校法人天理よろづ相談所学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<p>本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/wp-content/themes/wp_tenri/pdf/open/tenriyorozu_member.pdf?ahttp://www.tenriyorozu-u.ac.jp/information/summary</p>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	現職	平成29年10月24日～令和2年10月23日	他大学の学長であり、大学運営全般についての客観的な評価を期待。
非常勤	現職	平成29年10月24日～令和2年10月23日	一般企業の人事担当責任者であり、大学における組織面についての評価を期待。
非常勤	現職	平成29年10月24日～令和2年10月23日	唯一の女性理事で、女性目線から大学のあるべき姿についての提言を期待。
非常勤	現職	平成30年4月1日～令和3年3月31日	実習先である法人の常務理事であり、実習等に関する調整の管理を期待。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	天理医療大学
設置者名	学校法人天理よろづ相談所学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では2018年度に授業計画の適正化を目的として、本学教務委員会にて「シラバス作成と成績評価のためのガイドブック」を作成し、2019年度授業計画(シラバス)の作成に向けて科目責任者等に周知したところ。</p> <p>この中で、全ての科目において、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準をはじめ、いわゆる予習・復習の内容やその他授業の実施に関する必要な諸事項について記載されているか教務委員会で総合的に確認し、新学期開始前の相応な時期に公表している。</p> <p>なお、今年度はこのタイミングに合わせて、新教務システムでのシラバス作成に移行し、より利便性を図り、その内容について対象者を特定せず広く一般に示している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学ホームページ https://thcu-portal.tenriyorozu-u.ac.jp/Syllabus/default.asp</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>本学では、履修認定や単位授与について、年2回前期・後期ごとに定期試験をはじめとしてその学修成果の評価がシラバスに基づいて適正に実施されているかなど、学生に予め示した客観的な方法・基準に基づき教務委員会とその上位機関である教育・研究審議会が一体となって取り組んでいるところ。</p> <p>なお、個別に疑義が生じた場合であっても、客観的な方法・基準に基づく検証のうえ審議を行い対処している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

天理医療大学では、2017(平成29)年度よりこれまで開講した全科目においてGPA(Grade Point Average)制度を導入しています。

3. GPA制度について

(1) GP(Grade Point)について

5段階の成績評価(秀、優、良、可、不可)に各グレードポイント(Grade Point)が付き、両者の関係を次のとおりとしています。

(2) GPA(Grade Point Average)について

成績評価	合格(単位修得)				不合格	
	秀	優	良	可	不可	
評価基準	100~90点	89~80点	79~70点	69~60点	59~0点	受験放棄他
GP	4	3	2	1	0	0

みなさんが履修した科目の成績評価として秀~不可までの5段階評価が付き、5段階評価を4~0までのポイントに置き換え、履修した単位数を掛けたものがその科目のポイント数になります。

さらに履修した全ての科目のポイント数を合計し、履修単位数で割って平均を算出したものがGPA(Grade Point Average)です。算出方法は次のようになります。

$$\text{GPA} = \frac{\text{《履修登録した各科目のGP} \times \text{その科目の単位数》の総和}}{\text{履修登録した全各科目の総単位数}}$$

客観的な指標の算出方法の公表方法

本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/wp-content/themes/wp_tenri/pdf/open/learning_guide_2019_new.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学では、次のとおりディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する方針）を策定し、学生への学位授与にあたっている。

1. 豊かな人間性、高い倫理観とプロフェッショナリズムを持って行動できる。
2. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけている。
3. 看護学あるいは臨床検査学の専門性の高い知識と技術を持ち、それらを総合的に活用できる思考力・分析力を持っている。
4. 医療チームの中で専門性を発揮するための自律する力とチームの力を引き出すための協働する力を兼ね備えている。
5. 常に学習し、医療の中で直面する課題を真摯に科学する心を持って探究する力を身につけている。

実際の卒業認定にあたっては、教務委員会において対象者全員の単位修得状況を1人ずつ全委員同席のうえ確認し、本学の卒業認定に関する方針や学生の修得状況を詳細に確認のうえ、上位の教育・研究審議会で最終的に審議されている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/wp-content/themes/wp_tenri/pdf/alter/diploma_policy_20170119.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	天理医療大学
設置者名	学校法人天理よろづ相談所学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/information/summary
収支計算書又は損益計算書	本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/information/summary
財産目録	本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/information/summary
事業報告書	本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/information/summary
監事による監査報告(書)	本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/information/summary

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/information/outline
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/information/outline
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 医療学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/information/outline ）
（概要） 専門領域のみならず社会人としての豊かな知識を持ち、真摯に科学する精神に裏打ちされた医療に関わる専門性の高い技術や研究する能力を備え、人に対する深い愛情と自分を律する謙虚な心を持つことが天理医療大学（医療学部）の教育研究上の理念とし、教育基本法及び学校教育法に則り、人に尽くすことを自らのよろこびとするという天理教の信条教育を基調として、広く知識を獲得し、医療に関わる専門性の高い技術を習得し、真摯に科学する精神を育み、人に対する深い愛情と自分を律する謙虚な心をもった人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/information/outline ）
（概要） 本学では、所定の単位を修得し、以下に到達した学生に学士の学位を授与します。 1. 豊かな人間性、高い倫理観とプロフェッショナリズムを持って行動できる。 2. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけている。 3. 看護学あるいは臨床検査学の専門性の高い知識と技術を持ち、それらを総合的に活用できる思考力・分析力を持っている。 4. 医療チームの中で専門性を発揮するための自律する力とチームの力を引き出すための協働する力を兼ね備えている。 5. 常に学習し、医療の中で直面する課題を真摯に科学する心を持って探究する力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/information/outline ）
（概要） 本学の教育理念およびディプロマ・ポリシーに基づいて、以下の基本方針で教育課程を編成・実施します。 1. 豊かな人間性、高い倫理観とプロフェッショナリズムの育成 ひとりの社会人であると同時に医療のプロフェッショナルとなるためには、人を愛し、深く理解し尊重する姿勢やプロフェッショナルとしての自覚・意識を持つことが必要です。 豊かな人間性を育むために、生命、宗教、法律、身体、心理などさまざまな角度から人の営みを伝える科目群を通して、いのちの尊厳、人間の理解を深め、社会を知るための教育を行います。これらの科目は、講義と小グループでの演習を基本とし、講義で学んだ知識を基盤に、他者の考えを聴き、自分の意見を伝えることで、人間と社会について基本的な知識を学べるようにします。 また、高い倫理観とプロフェッショナリズムを育むために、医療の分野に関わる社会のしくみとそこで働く人々を深く理解し、そこで活躍するプロフェッショナルとしての社会的な責任や守るべき規則を学習できるようにします。総合基礎科目で基本的な考え方を学び、専門科目で看護学あるいは臨床検査学それぞれの学問領域における倫理的課題や科学的根拠に基づいた看護技術・医療技術を学び、臨地実習や研究活動を通して体験的に学習できるように教育します。 これらの学修成果は、客観試験、レポート、実習中の行動・態度・姿勢などで評価します。 2. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力の育成 社会人として社会の中で働くということ、そして「人に尽くす」この意味を理解して

行動するためには、他者との良好な関係をつくることができるコミュニケーション能力が不可欠です。初年時教育として、学生間のコミュニケーションからさまざまな年齢層の方とのコミュニケーション、医療者とのコミュニケーションへと発展させながらコミュニケーションを段階的に学習できるようにしています。

また、社会では、立場や年齢などの異なる人々と関わることが多く、医療現場では、多職種と協働する力も必要です。その力を高めるため、看護学科と臨床検査学科という異なる2つの専門領域の学生が合同で学習する科目を多く配置し、1年次から縦断的に学習してチーム医療に不可欠な他職種への理解を深め、臨地実習で医療チームの実際を体験したのち、4年次に医療チームにおいて専門性を発揮しながら他職種との良好なコミュニケーションを実現する方法を学んでいきます。

これらの学習は少人数でのグループ学習が中心で、そこで学び得たことから自己の考えをまとめたレポートで学修成果を評価します。

3. 専門性の高い知識と技術の習得と思考力・分析力の育成

生化学、栄養、薬理、感染のような横断的な科目と解剖、生理、病態・病理、疾病の治療を臓器別に学ぶ系統的な科目を配置し、体のしくみと医療を立体的に学ぶことができます。そして膨大な知識の習得に向けた探索的・自主的学習を支援するために、eラーニングを導入し、予習や復習、自己学習と自己評価ができるようにします。このことで、自ら積極的に知識や技術を学びとる学習態度を身につけることができます。

ますます高度・専門化する医療現場では、遭遇する問題を解決するための知識や技術を身につけるだけでなく、問題を多面的にとらえて分析し解決策を模索するという飽くなき探究心が不可欠です。入学後の早い時期に臨地実習を行い、学生の知的好奇心と医療のプロフェッショナルとして学習に組み始める自覚を育みます。そして、専門科目では、医療施設、介護施設、行政関連施設などで実習を行うとともに、それらの施設から、看護職者・臨床検査技師・医師等を講師に迎え、それぞれの施設で行われている医療の最新の知識や技術を学習できるようにしています。

これらの学修成果は、客観試験、レポート試験、実技試験から総合的に評価します。

4. 医療チームの中で専門性を発揮するための自律する力とチームの力を引き出すための協働する力の育成

医療においてそれぞれの専門性を高め、協働して活動するためには、医療者に共通した知識や考え方を習得する必要があります。そのために、両学科の学生には、医療の歴史、医療における科学的思考、法律、福祉、医療安全、情報科学などの科目を配置しています。そして、協働的実践のアーリー・エクスポージャーとして医療の現場を見学する実習を行い、2年次には社会の中の相互扶助の活動を合同で調査し、4年次にはそれぞれ学んできた専門的な知識を踏まえて、チーム医療の中で日常的に行われているケース・カンファレンスを実際の事例を用いて行います。評価は、学んだことをまとめて記載するレポートの内容で行います。

5. 常に学習し、医療の中で直面する課題を真摯に科学する心を持って探求する力の育成

大学を卒業後も常に学習し、医療の中で直面する課題に取り組み、解決に向けて努力していける力を養うために、3年次・4年次には、既習学習や臨地実習で芽生えた課題や疑問について、研究計画を立案あるいは研究を実施し、将来、自律して課題を探究し続ける1つの方法として研究プロセスを学習します。演習科目として学生と教員とが1対1で指導する体制を組み、看護学科においては研究計画の立案、臨床検査学科においては実験計画の立案・実施を行います。評価は、研究の成果を研究計画書あるいは論文・抄録として作成したものおよび成果報告会で行うプレゼンテーション内容によって行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ <http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/information/outline>）

(概要)

天理医療大学の教育理念は、「人に尽くすことを自らのよろこびとする」という天理教の信条教育を基調として、専門領域のみならず社会人としての豊かな知識を持ち、真摯に科学する精神に裏打ちされた医療に関わる専門性の高い技術や研究する能力を備え、人に対する深い愛情と自分を律する謙虚な心を持つ者を育成することです。この教育理念を理解した上で、将来医療者として社会に貢献したいという志と、幅広い教養や深い専門的知識と豊かな人間性を兼ね備えた医療人となるという強い意志を持った人を入学者として受け入れます。

したがって、入学選抜試験では、専門職業人としての学習をするための基礎的な資質や能力として、高等学校教育で達成しておくべき基礎学力、文章の読解力と記述力、自己の考えを発言する力を重要視します。

入学を希望する皆さんには、高等学校卒業までにいろいろなことに関心を持ち、受験科目にとどまらずしっかり学習し、できるだけ多くの知識を得ておくことを期待します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ <http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/information/summary>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
医療学部	—	13人	4人	13人	7人	9人	46人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
		86人					86人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：本学ホームページ http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/department/medical_department/m_teacher http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/department/nurse_department/n_teacher http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/department/examination_department/e_teacher					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
平成30年度活動							
1. FDワークショップ 「共通総合基礎科目・共通専門基礎科目と専門科目との連携」9月5日水曜日にワークショップを開催した。							
2. 奈良県大学連合FD・SD教職員研修会 「教員・スタッフのためのマネジメント教育：組織課題の見える化」を開催した。							
3. FD講演会・WorkShop 「配慮が必要な学生への教育について」を開催した。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
医療学部	100人	109人	1.09%	400人	425人	106%	0人	0人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	100人	109人	1.09%	400人	425人	106%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
医療学部	94人 (100%)	2人 (2.1%)	90人 (95.7%)	2人 (2.1%)
	人	人	人	人

	(100%)	(%)	(%)	(%)
合計	94人 (100%)	2人 (2.1%)	90人 (95.7%)	2人 (2.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先：富山県立総合衛生学院保健科、神戸大学大学院 就職先：公益財団法人天理よろづ相談所、奈良県立医科大学附属病院、奈良県立病院機構、南奈良総合医療センター、田北病院、高井病院、大阪市立大学医学部附属病院、大阪警察病院、大阪市民病院機構、大阪医科大学附属病院、若草第一病院、佐藤病院、大阪暁明館病院、済生会松坂総合病院、東京ベイ浦安市川医療センター、北里大学病院、岡山市立市民病院、兵庫医科大学医学部附属病院、名古屋臨床検査センター、日本医学臨床(株)、(株)メディック、近畿健康管理センター、福山臨床検査センター、(株)リンテック 大分支店				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では2018年度に授業計画の適正化を目的として、本学教務委員会にて「シラバス作成と成績評価のためのガイドブック」を作成し、2019年度授業計画（シラバス）の作成に向けて科目責任者等に周知したところ。</p> <p>この中で、全ての科目において、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準をはじめ、いわゆる予習・復習の内容やその他授業の実施に関する必要な諸事項について記載されているか教務委員会で総合的に確認し、新学期開始前の相応な時期に公表している。</p> <p>なお、今年度はこのタイミングに合わせて、新教務システムでのシラバス作成に移行し、より利便性を図り、その内容について対象者を特定せず広く一般に示している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では、履修認定や単位授与について、その学修成果の評価がシラバスに基づいて適正に実施されているかなど、学生に予め示した客観的な方法・基準に基づき教務委員会とその上位機関である教育・研究審議会が一体となって取り組んでいるところ。</p> <p>なお、個別に疑義が生じた場合であっても、客観的な方法・基準に基づく検証のうえ審議を行い対処している。</p> <p>本学では、次のとおりディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する方針）を策定し、学生への学位授与にあたっている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性、高い倫理観とプロフェッショナリズムを持って行動できる。 2. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけている。 3. 看護学あるいは臨床検査学の専門性の高い知識と技術を持ち、それらを総合的に活用できる思考力・分析力を持っている。 4. 医療チームの中で専門性を発揮するための自律する力とチームの力を引き出すための協働する力を兼ね備えている。 5. 常に学習し、医療の中で直面する課題を真摯に科学する心を持って探究する力を身につけている。 <p>実際の卒業認定にあたっては、教務委員会において対象者全員の単位修得状況を1人ずつ全委員同席のうえ確認し、本学の卒業認定に関する方針や学生の修得状況を詳細に確認のうえ、上位の教育・研究審議会ですべて最終的に審議されている。</p>
--

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
医療学部	看護学科	1 2 4 単位	有・無	年間 4 0 単位
	臨床検査学科	1 2 4 単位	有・無	年間 4 0 単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : 本学ホームページ <http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/life/campus>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

2015（平成27）年度、2016（平成28）年度入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
医療学部	看護学科	1,090,000円	300,000円	450,000円	
	臨床検査 学科	1,090,000円	300,000円	450,000円	

2017（平成29）年度、2018（平成30）年度入学生、2019（令和元）年度入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
医療学部	看護学科	1,090,000円	300,000円	500,000円	
	臨床検査 学科	1,090,000円	300,000円	500,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1. 多様な授業形態の採用（eラーニング）の活用 本学のeラーニングは、学生が授業を受けることを支援するシステムで、学生個々のコンピュータ（PC）から Tenri Health Care University LMS のサイトに入り、授業で使われる資料を前もって勉強したり、用意された予習のためのテストを受けたり、授業後にレポートを書いて提出することが可能。学内だけでなく、自宅や寮からもインターネットの環境があれば Tenri Health Care University LMS のサイトへのアクセスが可能となっている。</p> <p>2. 履修指導方法 ○ガイダンスの実施 入学時にオリエンテーションを実施し、カリキュラム編成の考え方、履修方法、学習方法及び大学での自律した学びや将来の進路について考え、自己判断できるように指導している。また、各学年（前期・後期）の開始前に実施するガイダンスを通して開講科目や履修指導について説明し、学生の学習計画を支援している。 ○履修指導体制の整備（チューター制度） チューター制度は、学生同士および教員とのふれあいや交流を通して、豊かな人間性の形成に努め、有意義な大学生活を実現することを目的として、学科ごとの各学年にチューター（看護学科は4名、臨床検査学科は2名の教員）を置いている。 また、チューターは、大学の教育方針を伝達し、学生の学習および学校生活上の相談を受け、助言をしたり、健康問題や就職などの相談を受け、助言をしている。</p> <p>3. 本学は、学生の個人として尊重され良好な教育環境の下で平等に学ぶ権利を守るため、ハラスメントの防止やその対応について所定の規則を定めている。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1. ガイダンスの実施 入学時にオリエンテーションを実施し、将来の進路について考え、自己判断できるように指導している。また、卒業及び卒業後の就職については、チューター及び学科長が協力してあたっている。</p> <p>2. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 社会的・職業的自立に関する指導等の体制は学生委員会と事務組織の就職・渉外課が中心</p>

となっており、個々の学生への指導や支援はチューターが行っている。各学科と就職・渉外課は、大学院の入試情報や企業の就職情報を収集し、学生への周知を図るとともに、チューターはこれらの情報を共有し、担当する学生の大学での成長過程を初年次から把握し、卒業時点での学生の能力や素質を理解し、学生を個別に支援する体制をとっている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

1. 健康・相談

本学では健康管理室と学生相談室を設置している。

○健康管理室

健康管理室では健康管理担当者が学生の健康状態を管理している。

○学生相談室

学生相談室では、日常生活や友人関係など学生が抱える様々な悩みにカウンセラーが対応している。

2. 定期健康診断

学生の健康増進、疾病の予防・早期発見・治療に役立てるため、毎年4～5月に学生全員を対象とした定期健康診断を実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ

http://www.tenriyorozu-u.ac.jp/feature/research_activities